



IX Knowledge Inc.

2022年3月期 第2四半期 決算説明会

2021年11月24日

アイエックス・ナレッジ株式会社

JASDAQ(9753)



目次

当社を取り巻く環境と業績概要

2022年3月期 第2四半期 業績

今後の取組み

1. 当社を取り巻く環境と業績概要

当社を取り巻く環境と業績概要

2022年3月期 第2四半期 業績

今後の取組み

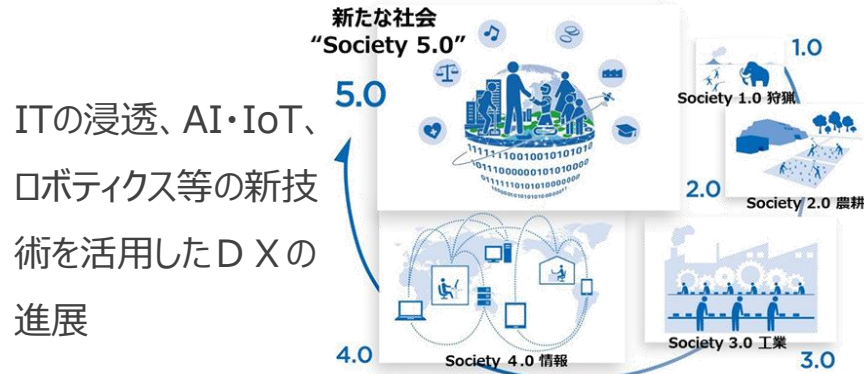
トピックス

2022年3月期 第2四半期

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・組織再編 →開発の効率性・生産性向上を目指した事業部門再編 →管理・牽制機能及び事業運営支援強化に向けた管理部門再編 →機動的かつ横断的なリソース・ノウハウ活用の為の営業部門再編 ・新入社員84名入社 ・オフィスカジュアル導入 ・大手エネルギー会社様1社から感謝状
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・大手ベンダー様1社から表彰 ・大手ベンダー様1社から2セグメントにてパートナー認定 ・情報システム会社様1社から表彰
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システム会社様1社からパートナー認定
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己株式の取得開始（2021年8月2日から2021年12月22日まで） ・新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施 ・情報通信事業者様1社から表彰
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・他社商材拡販に向けた「テレワークご支援キャンペーン」実施 ・Ocean to Table Council 魚のトレーサビリティ実証事業 「江戸前フィッシュパスポートフェア」開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・新市場区分への移行に際し「スタンダード市場」を選択

市場環境とそれに対する当社の取り組み

情報社会（4.0）からSociety5.0の社会へ



出典：内閣府ホームページ

(https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

新型コロナウイルス禍で「ニューノーマル時代」へ

新しい生活様式、
ビジネススタイル、
新しい価値観の
登場



出典：photoAC

<DXの加速>

デジタル庁発足
様々な分野でのDX促進

<働き方改革の加速>

テレワーク、Web会議
ペーパーレス等

当社が担う役割

- ・既存顧客のデジタル化を見据えたシステム構築等への対応
- ・新たな技術への対応による付加価値やビジネスモデルの創出

お客様のビジネス課題解決

新たな市場創出

コロナ禍で加速するビジネス環境の変化

新型コロナウイルス感染症が与える影響

Face to Faceから オンライン・非接触の流れ

これまでの当たり前が通用しない「ニューノーマル時代」へ

「DX」の加速

デジタル庁発足の動き
あらゆる分野でDX促進

ビジネスの変革

「働き方改革」の加速

テレワーク、書類・印鑑の電子化
Web会議の一般化

多様なワークスタイルへの
対応

<コロナ禍における当社の取り組み>

● コロナ禍の事業活動への影響

- ・営業活動の改革（顧客訪問、出張、会食の制限・自粛）
- ・対面での採用活動、教育研修活動の制限

当社の取り組み

- DX（デジタル化）
 - ・テレワーク環境整備
 - ・Web会議等各種ツールの活用による非対面での採用活動、教育研修の実施（継続的な人材投資の推進）
 - ・基幹システム更改 / EDI導入検討
- 働き方
 - ・在宅勤務、時差出勤、オフィスカジュアル
 - ・ハイブリッド型による業務推進（Zoom、Teamsの活用）
 - ・健康優良企業「金の認定」の継続

顧客状況

- DX（デジタル化）
 - ・テレワーク環境整備
 - ・Web会議ツール等の活用
- 働き方
 - ・顧客現場における在宅勤務、時差出勤
 - ・Web会議ツール活用による事業活動の非対面化 ⇒ 外部からの訪問抑制

引き続き DX / 働き方改革 推進

2022年3月期 第2四半期 業績概要 (1)

【売上高】 9,197百万円 (前年同期比 8.7%増)

システム開発・システム検証案件の拡大に加え、システム運用・基盤環境構築案件の拡大により増収

● 売上への影響要因

■ 開発サービスの中のシステム開発売上増加 (↑)

✓ システム開発案件の増加

- ・大手通信事業者向け開発案件、システム検証案件
- ・資産運用事業者向けシステム開発案件

■ システム運用、基盤・環境構築売上増加 (↑)

✓ 社会・公共サービス系システム案件の増加

2022年3月期 第2四半期 業績概要 (2)

【営業利益】652百万円（前年同期比63.4%増）

適正な原価管理、販管費の抑制により増益

● 営業利益への影響要因

- ✓ 売上高の増加
- ✓ 技術者育成による単価向上、
適正な原価管理による原価率の低減
- ✓ 働き方改革・社内デジタル化への取り組み継続による
販管費の抑制

2. 2022年3月期第2四半期業績

当社を取り巻く環境と業績概要

2022年3月期 第2四半期 業績

今後の取組み

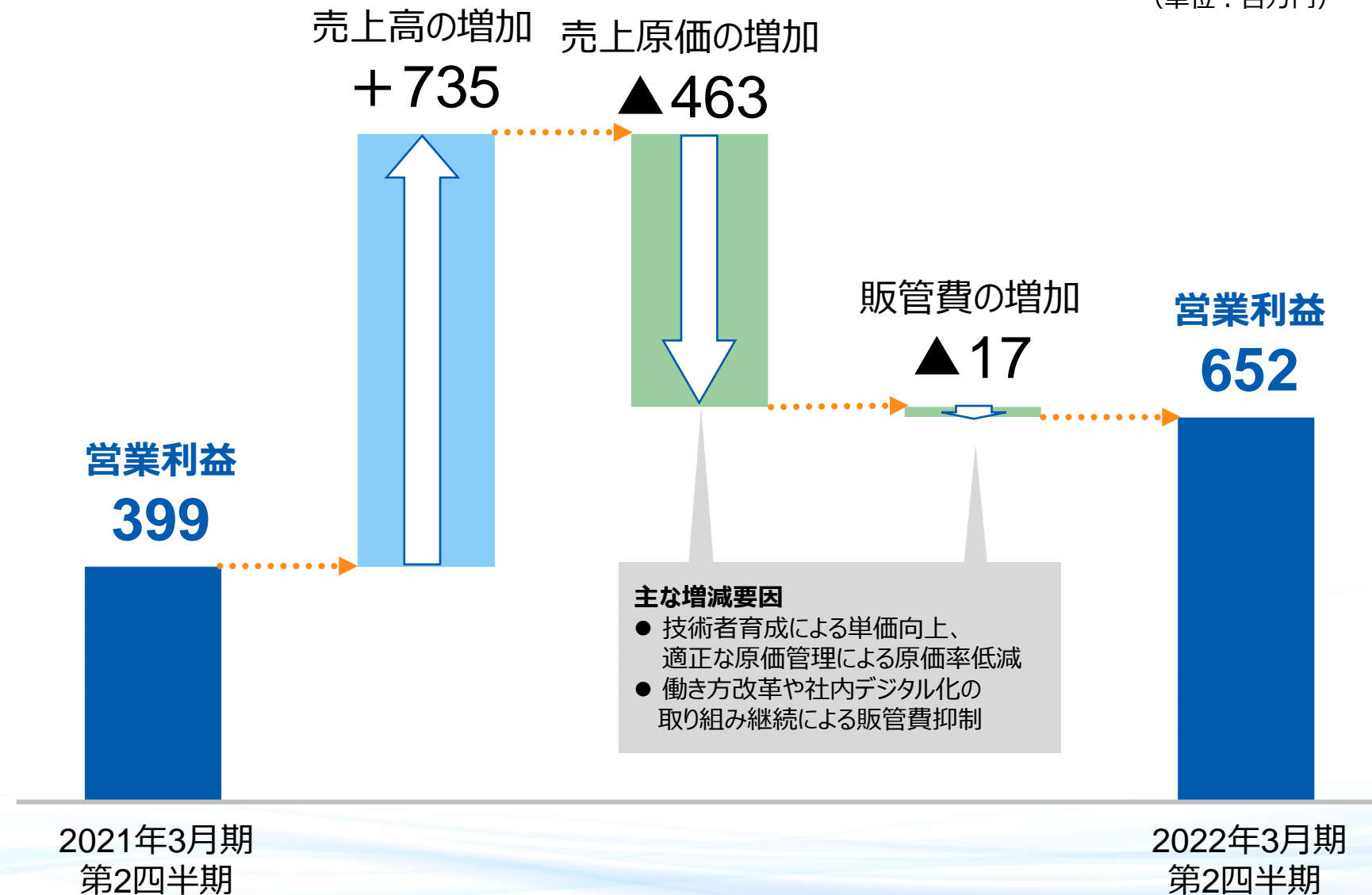
2022年3月期 第2四半期 経営成績

(単位：百万円)

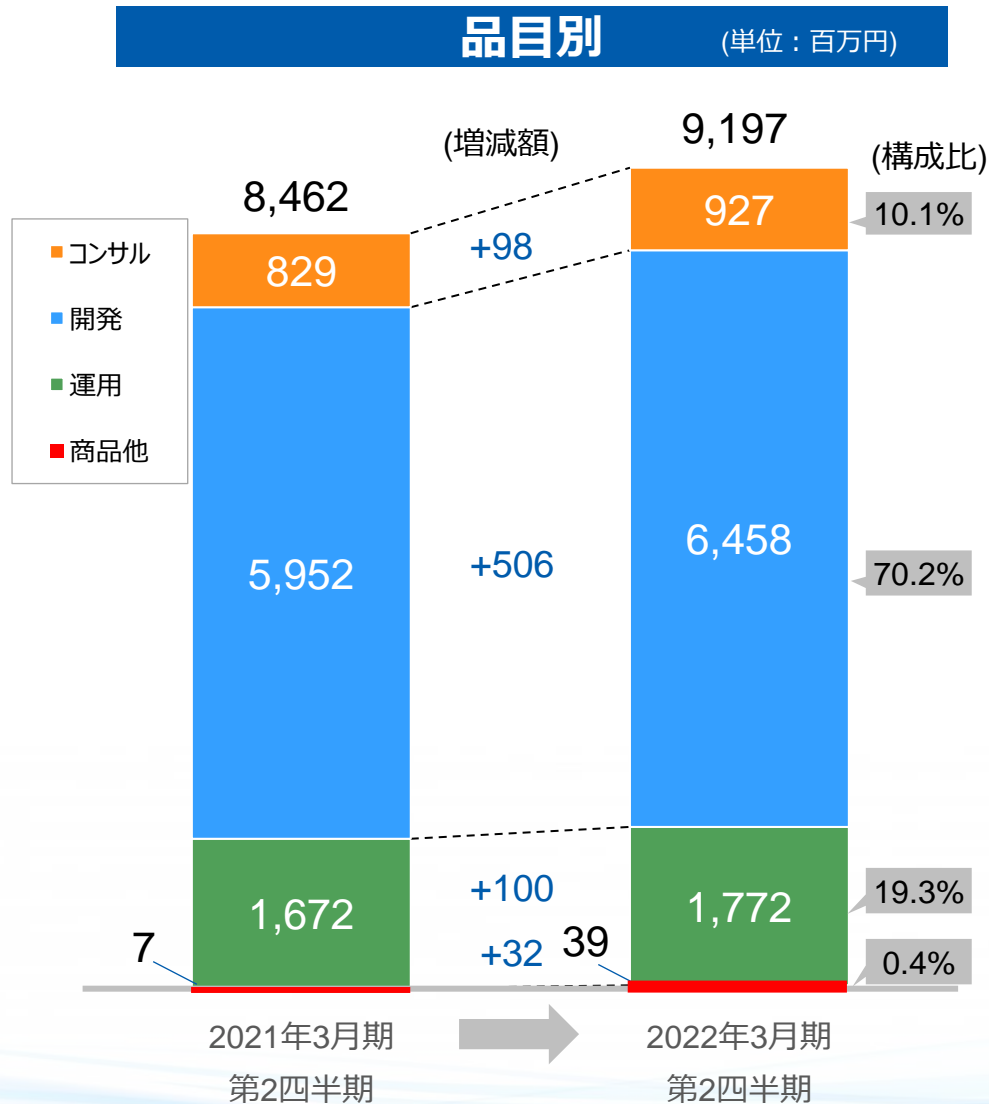
	2022/3月期 第2四半期	2021/3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	9,197	8,462	735	8.7%
売上原価	7,328	6,865	463	6.8%
売上総利益	1,868	1,597	271	17.0%
売上総利益率	20.4%	18.9%	—	—
販管費	1,215	1,198	17	1.5%
営業利益	652	399	253	63.4%
経常利益	700	427	273	63.8%
四半期純利益	493	285	208	73.2%

営業利益の変動要因

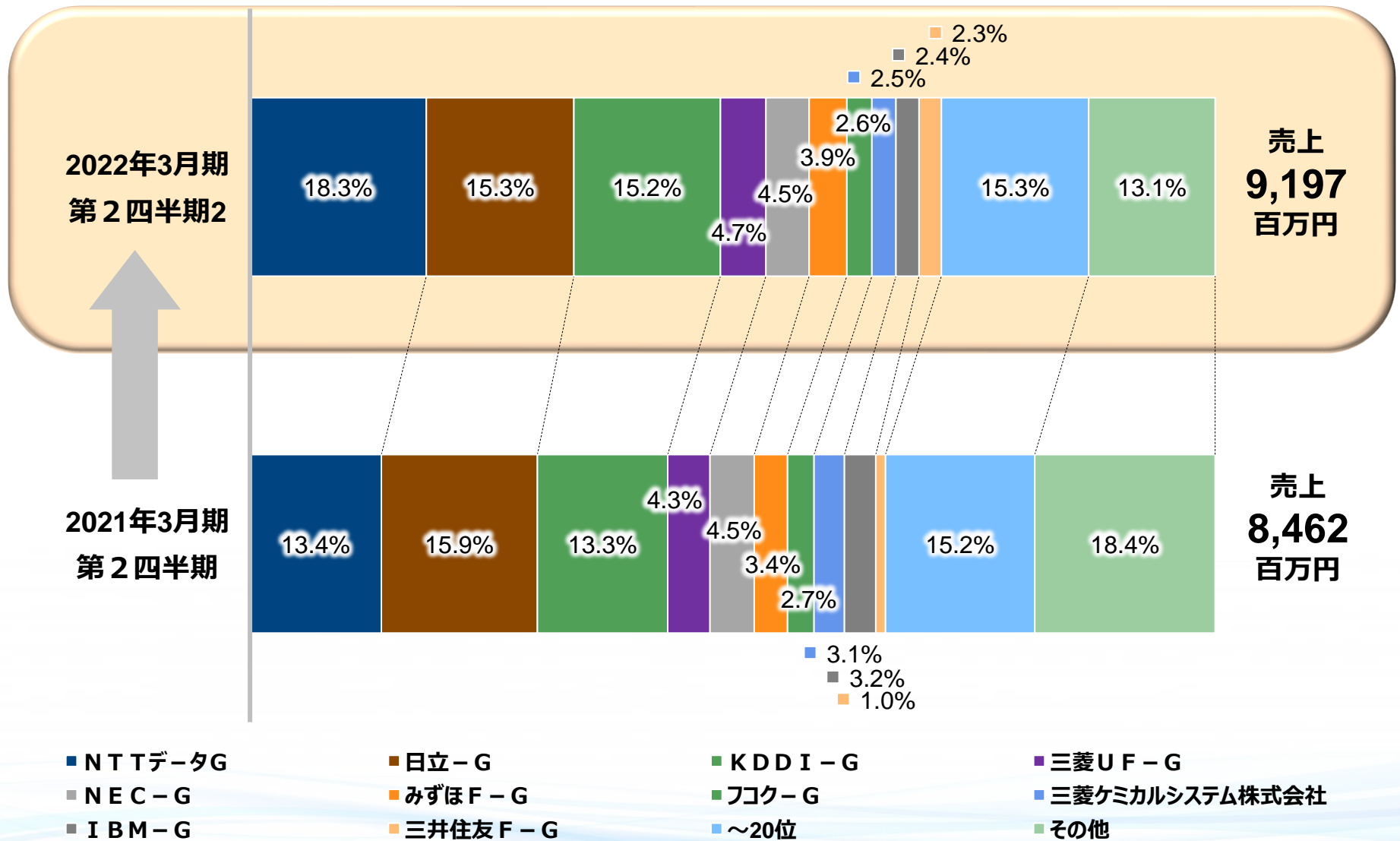
(単位：百万円)



品目別売上構成

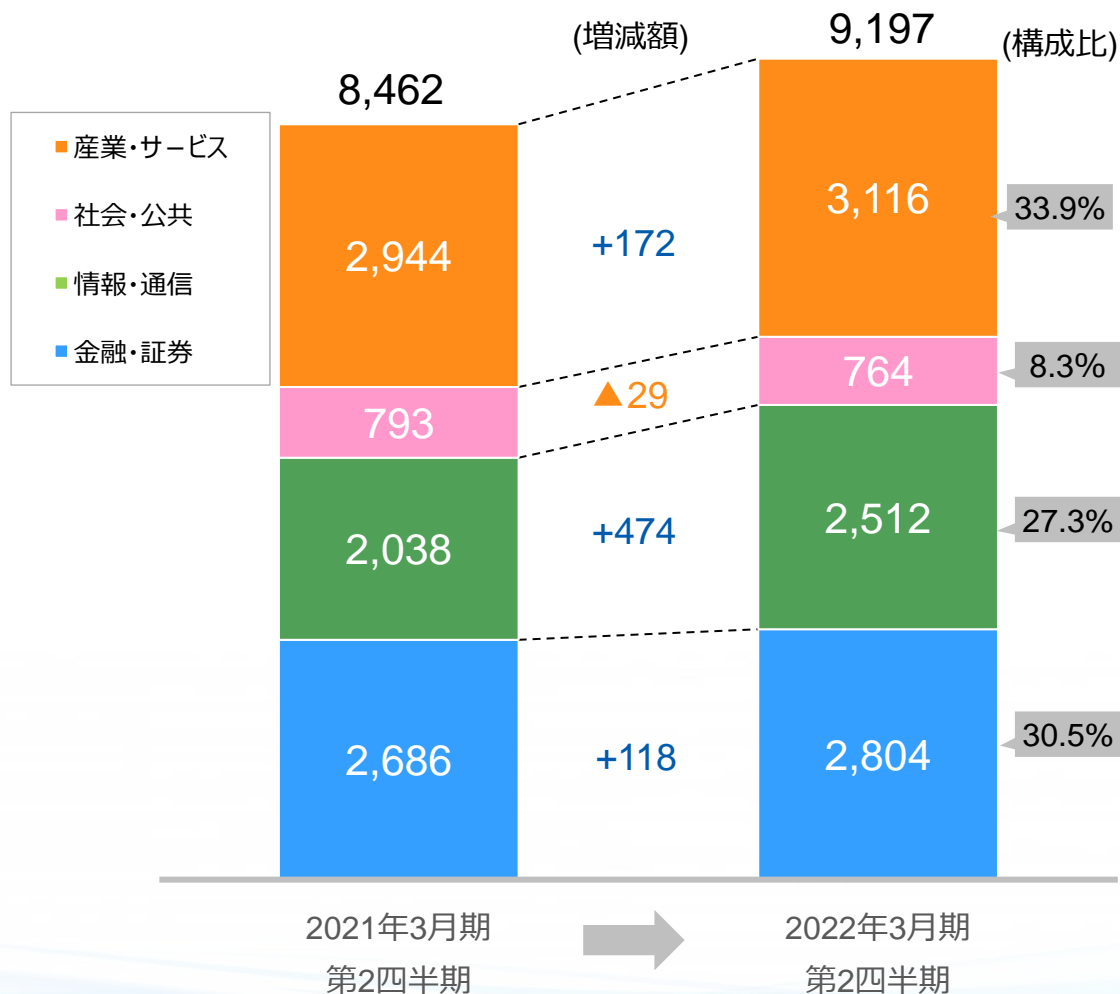


契約先顧客グループ別売上構成

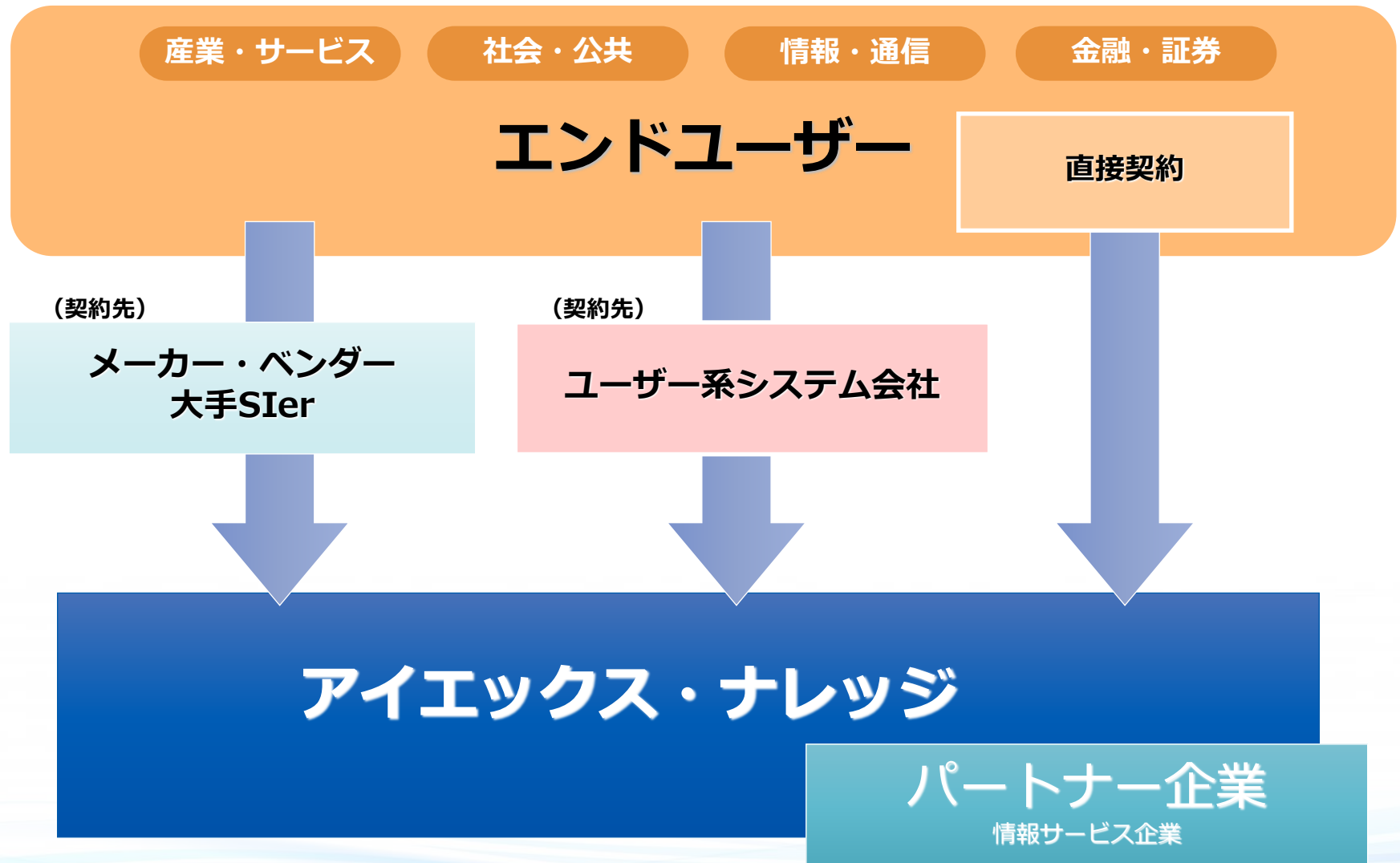


エンドユーザー業種別売上構成

エンドユーザー業種別 (単位：百万円)



(参考) 当社のビジネス構造

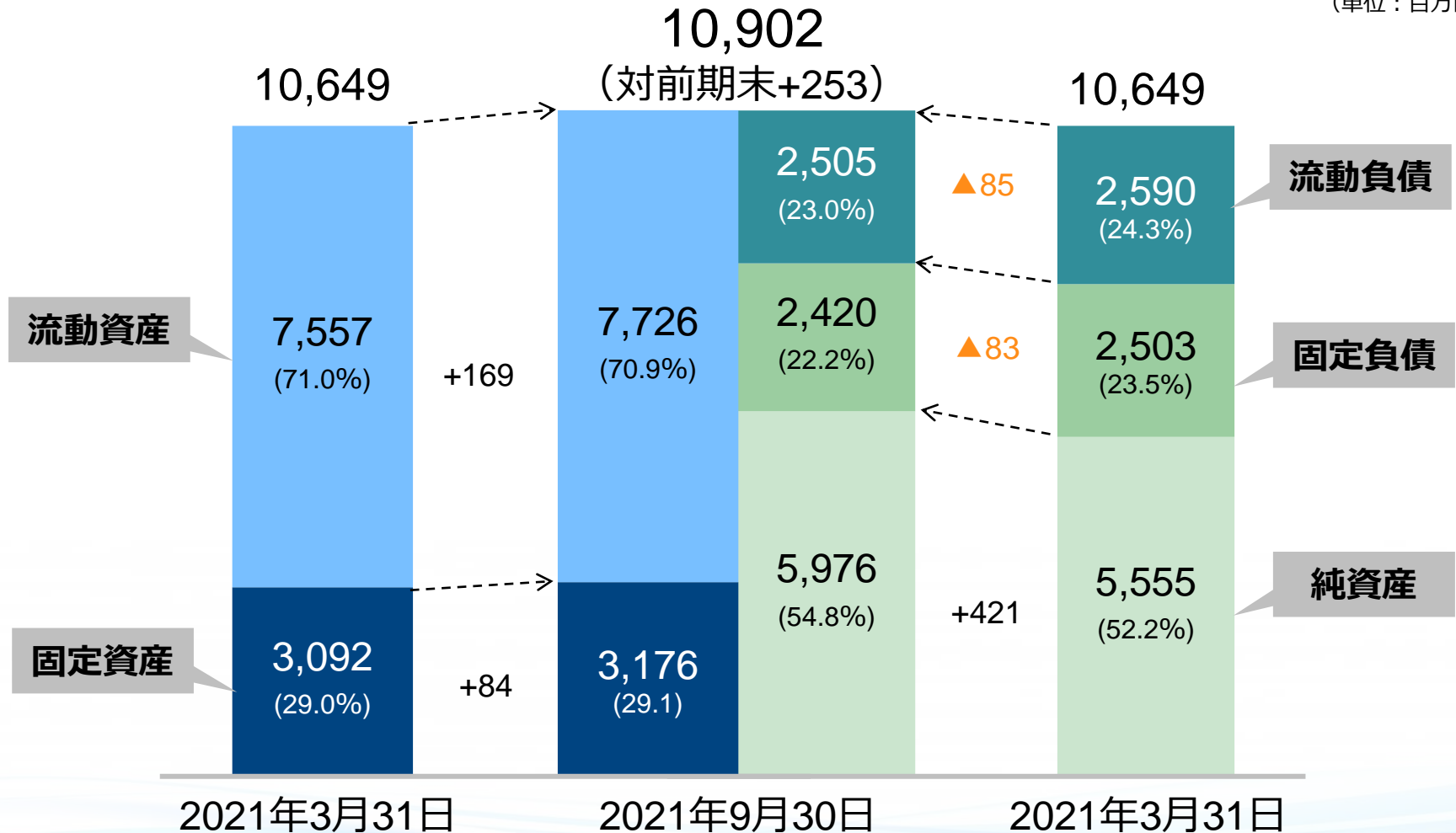


貸借対照表

資産の部

負債・純資産の部

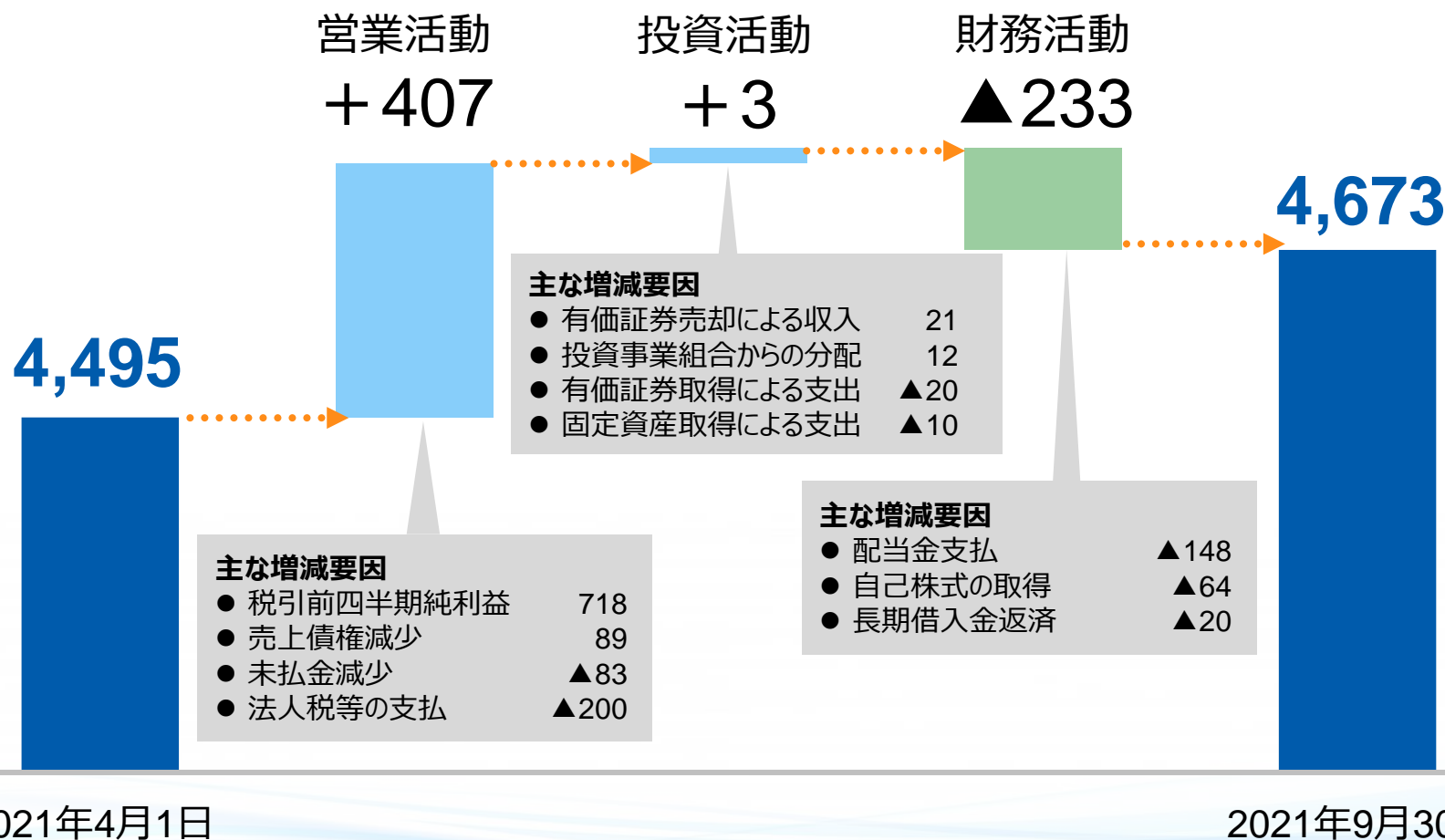
(単位：百万円)



キャッシュ・フロー

2021年4月1日～2021年9月30日

(単位：百万円)



3. 今後の取組み

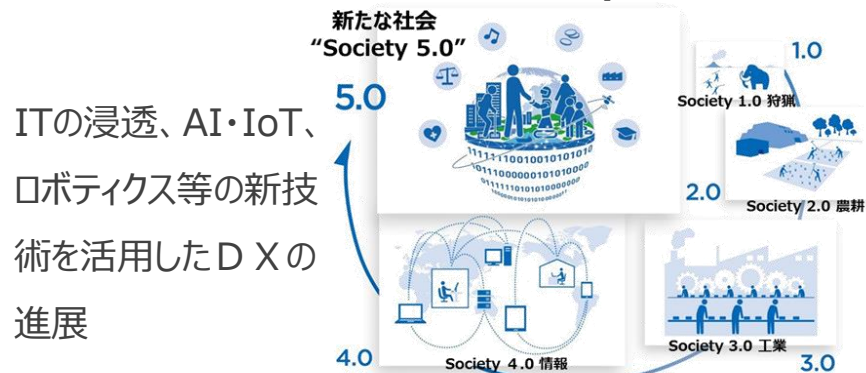
当社を取り巻く環境と業績概要

2022年3月期 第2四半期 業績

今後の取組み

市場環境とそれに対する当社の取り組み（再掲）

情報社会（4.0）からSociety5.0の社会へ



出典：内閣府ホームページ

(https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)

新型コロナウイルス禍で「ニューノーマル時代」へ

新しい生活様式、
ビジネススタイル、
新しい価値観の
登場



出典：photoAC

<DXの加速>

デジタル庁発足
様々な分野でのDX促進

<働き方改革の加速>

テレワーク、Web会議
ペーパーレス等

当社が担う役割

- ・既存顧客のデジタル化を見据えたシステム構築等への対応
- ・新たな技術への対応による付加価値やビジネスモデルの創出

お客様のビジネス課題解決

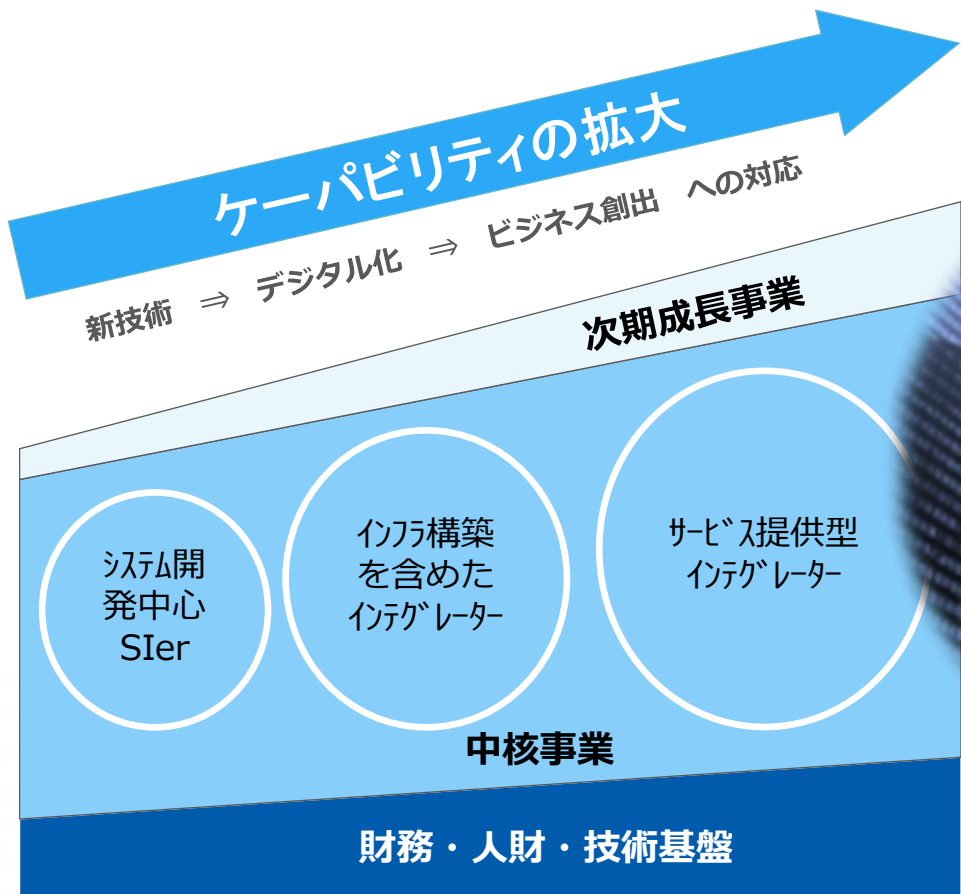
新たな市場創出

中期経営方針

【中期経営方針】

- ① 中核事業の拡大
- ② 次期成長事業の創出
- ③ 事業基盤の強化

中期経営計画で目指すもの



ケーパビリティの拡大からお客様との「共創」へ










今後の取り組み - 中期経営計画への対応 -

No	取り組みポイント	主な取り組み内容
1	営業体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・4営業部体制での機動的な営業活動推進 ※クロスセルによる既存顧客の深耕、新規顧客開拓
2	開発体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトモニタリング、原価管理徹底 ・継続案件の原価率低減、人員の最適配置 ・新技術（DX）に向けた開発体制整備
3	案件対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーとの案件対応力強化 →パートナー連携による重点対応分野の明確化 ・新技術に対応した人材育成（クラウドネイティブ人材）
4	デジタル化（DX）対応	<ul style="list-style-type: none"> ・社内デジタル化の推進 ・新設「DX推進室」を中心にクラウドネイティブ人材育成 →AWS、Azure等のクラウド技術者育成、クラウド案件参画 ・DXを活用した新規事業の取り組み推進 ブロックチェーン技術活用 魚のトレーサビリティシステム事業 ・他社連携によるサービスラインアップ拡充
5	事業基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・PM育成、新技術習得などの人材育成投資 ・新卒採用と継続的な中途採用による技術者確保 ・新基幹システムによる生産性向上推進 ・SDGsへの取り組み推進

今後の取り組み <SDGsへの取り組み>

●当社のSDGs取組み方針

企業理念と行動指針に基づき、持続的成長と企業価値の向上に努め、「平和と公正な社会」「すべての人が生き生きと活躍できる社会」「豊かで持続可能な社会」という3つの社会の実現に貢献

<p>平和と公正な社会</p>	<p>平和と公正な社会の実現に貢献 ～公平で平等な企業活動の推進～</p>	 
<p>すべての人が生き生きと活躍できる社会</p>	<p>すべての人が生き生きと活躍できる社会の実現に貢献 ～人材育成や女性活躍の推進～</p>	    
<p>豊かで持続可能な社会</p>	<p>豊かで持続可能な社会の実現に貢献 ～ITを活用した付加価値の創出～</p>	 

持続可能な社会の実現に貢献

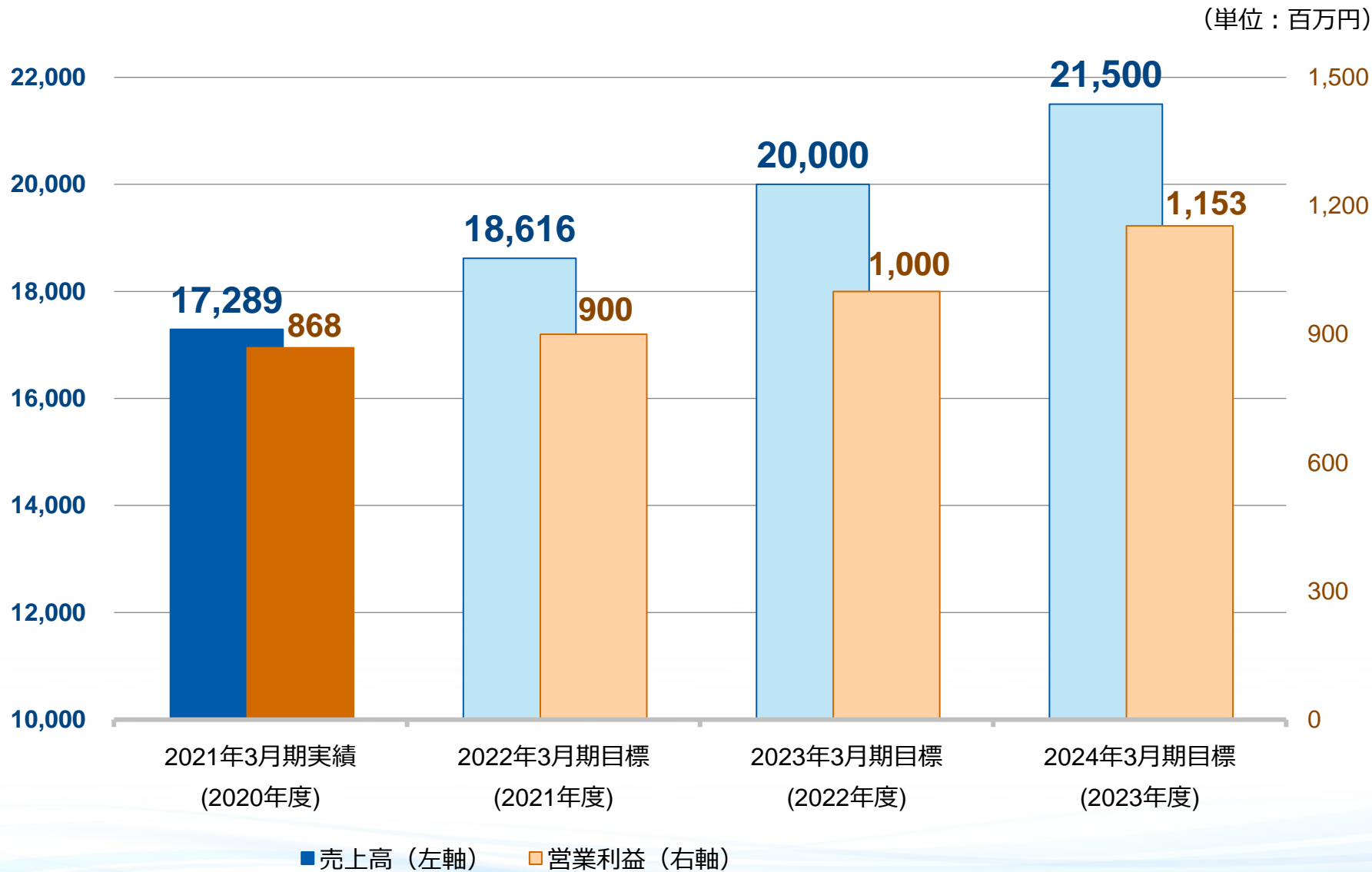
2022年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期 予想	2021年3月期 実績	増減率
売上高	18,616	17,289	7.7%
売上原価	15,115	14,070	7.4%
売上総利益	3,500	3,219	8.8%
売上総利益率	18.8%	18.6%	—
販管費	2,600	2,350	10.7%
営業利益	900	868	3.6%
経常利益	945	923	2.4%
当期純利益	635	630	0.9%
配当金	15円	15円	—

※新型コロナウイルスの感染拡大や収束の状況等により、業績予想の修正が必要な場合には、速やかに開示いたします。

中期業績目標



※新型コロナウイルスの感染拡大や収束の状況等により、業績予想の修正が必要な場合には、速やかに開示いたします。



IX Knowledge Inc.

当資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合がございますこと、予めご承知いただきますようお願い申し上げます。

お問合せ先
経営企画本部 総務部
電話 03-6400-7010
E-mail ir@ikic.co.jp
URL <https://www.ikic.co.jp>